

第23回国民文化祭・いばらき2008協賛 2008 茨城県芸術祭 映像コンクール

発表会

平成20年11月9日

土浦市民会館小ホール

特賞		80年の時を経て里帰りした「筑波かすみ」 倉持 敏男 (坂東市) 昭和2年にアメリカから送られた青い目の人形。その答礼として日本から送った人形の一体「筑波かすみ」が故郷に帰ってきた。(10分)
優賞		絹のふるさと 高橋 芳宣 (土浦市) 茨城県内では少なくなった養蚕農家。その暮らしぶりやカイコの生育記録などを、地元に伝わる伝説をからめて描く。(10分)
		街中で普通に暮らしたい 大森 弘之 (日立市) 水戸市で自立生活続ける身障者が、自らの体験を語り、自立生活の必要性を訴える。(10分)
奨励賞		<small>しゅうおり</small> 倭文織の里 外山 仁一 (ひたちなか市) 那珂市瓜連に伝わる織物の技術を復元させたグループ「手しごと」の皆さんの活動の様子を楳の栽培から記録した。(9分)
		自然のままがいい! (ハイビジョン) 原田 英一郎 (日立市) 日立市郊外にある「赤羽緑地・自然観察ふれあい公園」。その四季の移ろいの中から、自然環境保護の重要性を知る。(10分)
		山本五十六元帥と霞月楼 (ハイビジョン) 寺田 英雄 (つくば市) 戦後63年。過去の事実としての戦争を語れる人が消えていく今、土浦の霞月楼は、彼らの存在を現実味を持って残している。(10分)
		悲しき白鳥 (ハイビジョン) 小林 茂 (ひたちなか市) ひたちなか市大島公園の雷池に集まる白鳥たち。一見平和に見える白鳥の世界にも悲しいドラマがある。(9分)
茨城新聞社賞		大助人形 (ハイビジョン) 吉澤 富男 (那珂市) 時代とともに次々消えてゆく農村行事。そのひとつ「大助人形」をまだ続けている集落で、人形の作り方や由来を記録した。(7分)
入選		桜に会いたい 藤田 カツ子 (水戸市) 母校の中学が廃校になり、跡地に桜の苗木百本を記念植樹した。卒業以来50年、季節になると幼馴染が集い旧交を温める。(10分)
		世代交代 吹谷 富男 (守谷市) 長年続いた専業農家。両親が残してくれた家系を引き継ぐため、旧家を解体、新築に取り組む娘さんの物語。(10分)
		そらまめ栽培にチャレンジ 鈴木 基 (土浦市) 定年後はじめて畑を借り、大好物のそらまめの栽培にチャレンジしてみた。自分で作ったそらまめの味は格別だった。(9分)
		祭 栃本 輝明 (石岡市) 平成18年のいわゆる「石岡のお祭り」、常陸総社宮例大祭の記録です。(7分)
		鬼がくる山 佐藤 勝男 (日立市) 桜川市の雨引山薬法寺で行われてきた「マダラ鬼神祭」が8年ぶりに復活した。その奇祭の様子を記録。(7分)

応募総数 : 51 作品